第11回連続講座

『いのち』を考える

体験から生まれた叡智と生き方

1 4月28日(木)

養老 孟司

東京大学名誉教授

死から見えてくるもの

このたびの連続講座は、講師の方々がそれぞれ大変な実体験をお持ちと聞いています。その最初に登場する私も、これまで経験してきたことなどを振り返りながら、主に、人の死を通して見えてくる「いのち」についてお話ししたいと思います。

2 5月12日(木)

鳥越俊太郎

ニュースの職人

がんと向き合って

3 5月19日(木)

藤田 和子

若年性アルツハイマー病の本人、
NPO法人若年性認知症問題にとりくむ会・クローバー副理事長、
日本認知症ワーキンググループ共同代表

認知症のわたしたちが、考えていること、いっしょにつくっていきたいこと

「認知症になった全ての人が、希望と尊厳をもって暮らせる社会の実現にむけて」さまざまな立場の人々が関心を寄せ、力を結集していく取り組みを、共に創り出していきましょう。そのために、まずは認知症の本人の声をしっかりと聴き、認知症に関わるあらゆる取り組みに本人視点を反映させることが必要です。

4 5月26日(木)

大前 光市

プロダンサー

“無様”でも生きることは美しい

「素敵な生き方をしたい。」誰にでも理想の人生があり、そしてその理想に届かず苦しみます。私は、23歳の時に交通事故で左足を失い、理想としていた美しいダンサーではなくなりました。そんな私に、“無様”でもチャレンジを続ける勇気をくれたのが父でした。未来を描けなくなったとき、どう一歩を踏み出すのか。経験をもとにお話ししたいと思います。

5 6月2日(木)

広野 ゆい

NPO法人DDAC
(発達障害をもつ大人の会)代表

発達障害という個性を生きる

発達の凸凹をもちながら周囲の理解を得られないことで、うつなどのさまざまな二次障害を引き起こす当事者が少なくありません。私自身の特性を振り返りながら、大人の発達障害は今なぜ増えているのか、周囲の人はどうすればよいのかを共に考えます。

6 6月9日(木)

倉田 めば

薬物依存リハビリテーション・センター
大阪ダルクディレクター

私が手渡したいもの

私がクスリをやめたいと心の底から願った時、私の友人たちは皆去っていました。孤独でした。お金もなく、仕事もなく、未来への希望さえありませんでした。鉄格子のはまった病室で、世間を呪い、自分を責め続けたある日、一人の薬物依存者が私に面会に訪れこう言いました。「あなたの薬物依存の体験は、あなたの財産ですよ。」その宝物は、まだ苦しんでいる薬物依存者に手渡す瞬間光り輝き、今日一日、私がクスリを使わないで生きる糧となっています。

※都合により急遽講演内容等を変更する場合があります。

(敬称略)